

作業班報告（構成案）

1 検討の背景

第5回委員会（平成19年2月9日開催）において、作業班の各グループからヒアリングを実施し、それを踏まえて審議を行った結果、別添1（資料2022-VU作5-2を添付する。）の事項について検討を行い、次回委員会（平成19年3月30日開催予定）に報告することが、作業班に対して指示された。

本作業班としては、これを受け検討を行った。

なお、検討事項に関し質疑があり以下のようなやり取りがあった。

- 現在行われているデジタルラジオの実用化試験放送に対する認識、また、AMラジオのデジタル化に対する委員会の配慮について質問があったが、放送政策に関しては、担当部署で検討させて頂くことになるので、この場では答えられない旨の回答があった。なお、デジタルラジオは2011年7月24日までの周波数の使用という免許方針が定められ、その前提のもとに免許されているので、アナログ放送と同じように2011年7月21日以降は基本的にないとの説明があった。
- 通信システムの中の放送事業など、4つの大きな類型の中でのオーバーラップの議論は出たのか質問があった。プラットフォームは電気通信サービスだが中身は放送的なので、再分類してはどうかとの議論があったが、今の分類を踏まえて課題が示されているので、分類をいじり直すことは現状では想定していないとの説明があった。
- 個々のエゴイズムを主張する方は、退いて頂くという強い姿勢で臨んで頂きたいとの意見があった。ご自身の立場を変えて世の中に発言することを拒む必要はないので、制限をかけることは想定していないが、自己利益誘導型の議論は自然淘汰的になくなっていくのではないかとの見解が示された。
- 自営系とカテゴライズされたものは全部VHFで検討しないといけないのか、それとも、個々の主張の意味があれば今後も意見を述べていってもよいのか質問があった。現時点の議論では、自営通信システムはVHFで検討して頂くことになるので、UHF帯でなければ実現できないような機能・用途であれば、それは対象から外れたことになるが、ご自身が提案されたシステムが単にUHFを使っているだけであれば、実現しようとした用途を、他の周波数で検討していくなかで、ご自身のご見識を展開して頂くことは可能であるとの説明があった。また、それぞれの主張を全て満足しようとする、必ずしも有効利用方策は出てこない可能性があり、ある程度譲るということを考えながら、130Mの有効利用のソリューション、用途が実現できるということ、全体として考えて頂きたいとのお願いがあった。

2 作業班における検討体制

作業班における検討体制について、別添2（資料2022-VU作5-3を添付する。）のとおりアドホックグループを設置し、個別の課題を検討していくこととなった。

なお、検討体制に関しても質疑があり以下のようなやり取りがあった。

- 資料2022-VU作5-2の検討事項の宿題は従来のグループ内で行い、新しいグループでは30プラマイ5の検討をするという理解でよいか質問があった。自分のグループの中でできるものはその中で検討し、両者が集まって議論しないとできない問題、例えば周波数配置など調整が必要なものは、両方が集まって検討することになるとの説明があった。
- アドホックはこれまでの構成員が参加するのか、人数制限はあるのか等について質問があった。アドホックは作業班の下部組織として、作業班と一体となって活動して頂きたいので、作業班のメンバーでアドホックを構成するのが大原則で、人数制限はかけないが常識の範囲内でやって頂きたいとの説明があった。
- 次の作業班会合（3月20日頃）までに、4つのグループに加えて、大きな2つのグループの検討を行うことになるのか質問があった。次の委員会が、3月30日にスケジューリングされており、それまでに宿題に対する答えを出さないといけないので、約1か月で必要なアドホックを開催し、相当の議論を進めて頂きたいとの説明があった。
- アドホックの代表をいつまでに決めるのか、任意に会合を開いて代表者を決めてよいか質問があり、会議室の確保や召集の案内を出す関係で、代表者の方を早く選んで頂きたいとの説明があった。またサブを置くことについて質問があり、代表者の判断に委ねるとの回答があった。
- ガードバンドの関係上、システム間共用や帯域間共用について早めに検討したいので、干渉検討が必要なパラメータや項目等、フォーマットを示して頂きたいとの要望があったが、個別システム間の共用条件の検討ではなく、ガードバンドを含むグループ間の周波数配置を決めるときに共用検討が必要になるので、今の段階で事務局から一定の期限内にパラメータを示すのは難しいとの説明があった。

3 作業班アドホックグループの開催状況

本会合の参考資料を転記する。

4 課題の検討状況

本会合において出された意見、質疑、応答等を取りまとめ記載する。

(1) 自営通信グループからの回答

別添 3 (資料 2022-VU 作 6-2-1 を添付する。)に基づき説明があった(説明概要を記載する。また、議論があった場合にはその概要を記載する。)

(2) 放送グループからの回答

別添 4 (資料 2022-VU 作 6-2-2 を添付する。)に基づき説明があった(説明概要を記載する。また、議論があった場合にはその概要を記載する。)

(3) VHF 帯共用検討グループからの回答

別添 5 (資料 2022-VU 作 6-2-3 を添付する。)に基づき説明があった(説明概要を記載する。また、議論があった場合にはその概要を記載する。)

(4) ITS グループからの回答

別添 6 (資料 2022-VU 作 6-2-4 を添付する。)に基づき説明があった(説明概要を記載する。また、議論があった場合にはその概要を記載する。)

(5) 電気通信グループからの回答

別添 7 (資料 2022-VU 作 6-2-5 を添付する。)に基づき説明があった(説明概要を記載する。また、議論があった場合にはその概要を記載する。)

(6) UHF 帯共用検討グループからの回答

別添 8 (資料 2022-VU 作 6-2-6 を添付する。)に基づき説明があった(説明概要を記載する。また、議論があった場合にはその概要を記載する。)